

赦し(免除)を受けた感謝(ルカ 7:31-50)

真に癒されること、そして真の恵みの礼拝を捧げること、その結果、真の答えに預かること、それがクリスチャンに許されている祝福であり、私たちが祈っていくべき課題でもあります。そして、それはクリスチャン、自分が神様に赦された、そしてその赦された大きさに驚いて感謝するところから始まるものです。ぜひ今日の礼拝を通してその感謝が自分のものになるような幸いなときになることを祈りたいと思います。

今日の聖書の箇所は、測り知れない神様の赦しに感謝する女の人の姿と、それを見てなかなか理解できない、むしろ誤解しているパリサイ人のことが比較されて紹介されている内容です。パリサイ人はこの女の人が町の誰しもが知っている罪深い人だと思っていました。たぶん娼婦ではなかったのかなと思います。なので、イエス様が預言者ならご自分を触っている女人人がどういう人間なのか分かっているはずなのに放つておくのかという目で見ていました。それでイエス様はたとえ話をしながら「返せない借金があつたときに、金額が大きい人と小さい人両方ともそれが免除されることになったときに、どちらがよりその債権者の方を愛するようになるでしょうか。ありがたく思うようになるでしょうか」と質問されて、「それは当たり前に多く許された人のほうでしょう」と返事をしたらイエス様があなたの言う通りなんだと。この女人人は測り知れない神様の赦しを受けたから、その感謝の反応としてこういうことやっているだけであって、あなたはそのような赦しが全く分かっていないので理解もできないし、逆に誤解する側に立つことになってしまふんだよというお話をていらっしゃる場面なのです。そして、今日お読みしました聖書の前の箇所、先週私たちが見ていたその箇所、バプテスマのヨハネがつづいていたという箇所の内容は、この女性のように本当に神様に赦されたその大きさが何か、測り知れないのです。計算できません。その赦されたことが何か分かっていないがゆえに現れるさまざまな反応なのです。後でそれを少し考えてみますけれども。それで赦されたその驚きによる感謝、それはどのようにして生まれるものなのでしょうか。

1. 神様の赦しの他に希望のない人間

まず第一に、私たち人間のことが分かったときに、神様の赦しの他には希望のない人間だということが分かって、それを認めるときに始まるものなのです。

聖書は私たち人間が神様に対してどれほど悪な存在なのかということを詳細に教えてています。自分はそんなに悪くないと思っている人が多いでしょうけれども、それは人間同士、相対的に考えたときに人間が作り出した基準をもって比較したことであって、神の前ではすべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない存在です。

1) ローマ 1:23、28-31、3:10-18

ローマ 1:23 には「朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました」。不滅の靈であられる永遠の創造の神様のことを人間の形に動物の形に獣の形に替えてしまうようなものが人間なのです。神様がどれほど怒りを覚えられるでしょうか。もし皆さんの子どもたちが親のことを描くときに蟻として描けばどうなるでしょう。親を蟻のように描いてしまう、神の前ではそれ以上のことなのです。私たちは平気で偶像を作つて偶像崇拝をして、それが自分の幸せにプラスになると思ってやっているのですが、それがどれほど神の怒りを買つうことなのかと聖書は言っています。少し長くとも聞いてください。ローマ 1:28-31 「また、彼らは神を知ることに価値を認めなかつたので、(最初は神様などには無感覚で無知なのです) 神は彼らを無価値な思いに引き渡されました。それで彼らは、してはならないことを行つてゐるのです」。神様を偶像崇拝のように形を変えてしまう人間なのでどうなるかと言いますと、「彼らは、あらゆる不義、悪、貪欲、悪意に満ち、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪巧みにまみれています。また彼らは陰口を言い、人を中傷し、神を憎み、人を侮り、高ぶり、大言壯語し、悪

事を企み、親に逆らい、浅はかで、不誠実で、情け知らずで、無慈悲です」。これが人間です。人間のことをいろいろな思いで、いろいろな目で見ていらっしゃるでしょうけれども、聖書は少しも迷わないで人は神様の赦しの他には希望のない人間だと断言しています。ローマ3:10-18を見ても、「次のように書いてあるとおりです。義人はいない。一人もいない。悟る者はいない。神を求める者はいない」。いません。「すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」「彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌で欺く。」「彼らの唇の下にはまむしの毒がある。」「彼らの口は、呪いと苦みに満ちている。」

「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲惨がある。彼らは平和の道を知らない。」「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」。これが人間です。つまり簡単に申し上げると、人間がやれることできることというの、神様を無視して神に敵対することのほかにはできない存在です。ロケットを作ってコンピューターを作れるからすごいと思うでしょうが、神の前では人間がやることは、神を無視して神に敵対して神をののしることのほかにはできない、そういう素質以外には持ちあわせていない存在が人間なのです。なぜこうなってしまったのでしょうか。

2) ローマ3:23、ヨハネ8:44、エペソ2:1-3

先ほど申し上げましたように、すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。罪によって神の栄誉を受けることができない、神から離れてしまった結果なのです。罪を犯して神様を離れて神の栄誉から離れて遮断されてしまった結果が何かというと、ヨハネ8:44「あなたがたは、悪魔である父から出た者」であると。身分そのものが悪魔に属して悪魔の子として生まれるわけなのです。それが人間です。だから基本的に神様を無視して神に敵対することのほかにはできない。その裏返しが偶像崇拜であり、宗教なのです。ヒューマニズムのようなものなのです。なぜ人間がこうなってしまったのかについて、エペソ2:1-3には、「自分の背きと罪の中に死んでいた者」であって、たましいが死んでしまい、神様がいらっしゃらない、その神様がいらっしゃるところに悪魔サタンが座っているわけです。だから自然に空中の権威を持つ支配者、悪魔サタンに従い、悪魔サタンが作り上げた世の流れに従うしかないのです。世の流れは何でしょうか。さまざまに堕落ももちろんですが、基本的に神に向かって神を信じることの反対の流れのことを世の流れと言います。例えば、一番最初は罪を犯して、地獄の運命に捕らわれていた人間に助かる道、キリストを約束したときに、アベルはそのキリストの約束を信じる信仰の流れに立って、カインはそれを拒否する流れ、自分が努力して、自分の何かでという宗教の流れが生まれました。その二つの流れが人類の歴史が終わるまでずっと流れるわけです。どちらの流れに立つかの戦いなのです。空中の権威を持つ支配者、悪魔が作り出した流れ、絶対神様に会うことができないように仕組んであるその流れに従うしかありません。なぜなのかというと、生まれながら神の御怒りを受けるしかない、生まれながらこういう状態なのです。私たちが何をどうしたか、それは違う話です。それとは全く関係なく、生まれながらなのです。なので、こういうことで人間は神様の赦しの他には希望がない存在なのです。

3) 政治や教育、福祉、宗教、心理学、努力やもがき-返せない借金

これを知らずに政治に頼ったり、あるいは教育などで解決を求めたり、福祉の方で希望を見たりすることは愚かなことなのです。政治や教育がいらないという話ではありません。しかし、それは人間に希望になることではありません。私たち人間の問題は、政治によって希望が見えるものではありません。また、心理学や人間の努力や人間がもがくことによってどうにかなるようなそういう問題ではありません。だから、今日の聖書にも返せない借金という表現があります。私たちが神の前で抱えている借金というものは返せないものなのです。絶望的なのです。残念なのは、教会に通っていながらも、この人間の状態が自分の状態だと見ることができていないし、だから自分は神の前で絶対自分で、またどのような方法でも返せない借金、罪という借金を抱えている者だということになかなか気づかないのです。何か悪いことをしたから悪い者、そういうことはあまりやっていないからそんなに悪くないとつい思っているのです。それを宗教と言います。それでは真の癒しの祝福はなかなか経験できないでしょう。本当に恵まれる礼拝に預かることはなかなか難しいです。つまり、クリスチャンに用意されている本当の答えを見ることとは程遠い人生を歩くようになります。なんと残念でしょうか。悪魔サタンは、教会に通って礼拝を捧げて聖書を見てもこのことだけには気づかないように邪魔するわけです。私たちは政治や教育、心理学、努力等々

によっては返せない絶望的な借金を抱えている存在なのです。それが客観的な知識ではなくて私のことなのです。だから神様は最初から私たちでは返せないから赦すことを約束されました。しかし、神は正義の神様なので、ただで赦すわけにはいかないから、罪のない御子キリストを私たちの代わりに贖いの犠牲のいけにえとしてキリストにすべてのさばきの罰を与えることで私たちを赦されることにしました。なぜでしょうか。神様の赦しのほかに方法がありません。皆さんどのようないくつかの問題も、皆さんがどうにかして心に平安を戻しすっきりしたとしても、それは皆さんの気持ちだけのことであって、また重荷を背負って疲れ倒れるようになります。私たちの問題は自分でどうにかして悩んで心配して努力して償ってできるようなものではありません。最初から。

4) 神様の赦しだけに希望が-創世記 3:15、イザヤ 53:6、マルコ 10:45、ヨハネ 19:30、ローマ 3:24、エペソ 2:8

だから神様の赦しのほかには希望がありません。神様の無条件の測り知れない赦しのほかには頼るところはありません。頼ってはいけません。一番最初から神様はこのような人間の状態が分かっていらっしゃったので、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み碎いて、かかとに噛みつかれることであなたがたを赦すよと。どれほど大きい罪なのか、小さい罪なのか、それは私たちの計算であって神様がご覧になったときには返せない罪なのです。借金なのです。だから赦すことのほかに方法がありません。つまり、言葉をえますと、私たちの方からはまったく希望などは存在しません。だから自分のどうのこうのこだわる理由も気にする理由もないのです。どうせ不可能なのですから。神様の赦しのほかにはありません。それで聖書のイザヤ 53:6 にはこう書いてあります。「私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた」。そのようにして赦されることのほかには、少し変な表現なのですが、神様にも方法がありません。それのほかには方法がありません。マルコ 10:45、これがそのまま成就されました。「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです」。なぜなら、そうしないと私たちは赦されないからです。私たちの問題は何の解決にもならないから。救いなどは夢の夢になるわけですから。ローマ 3:24 にも「神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです」。エペソ 2:8 にも「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出したことではなく、神の賜物です」と。これが赦しなのです。神様の赦しのほかには希望のない人間です。誰がでしょうか。私、自分が。他にまだ気にしているところがあるのでしょうか。優しい親元で生れてたらよかったです。そうすると皆さんは赦されると思いますか。皆さん人生が変わると思いますか。それが勘違いなのです。神様の赦しのほかには希望がありません。いくら優しい親元で生まれたとしても、いくら金持ちの家で生まれたとしても、いくら頭が良い人間で成績が優秀だとしても、そこに希望などはありません。勘違いしないように。だからそのせいにする理由も、せいにしてもいけません。何もかも見えないように、神様の赦しのほかには希望がないから、それだけが見えてくるように。それほど私たちの罪というものは絶望的なものなのです。人を殺した、それが罪でしょ? それが罪ではありません。人を殺す以前に罪人なのです。殺したから犯罪者になるでしょうが、それは法律上のことで、罪人だから返せない借金を抱えている者だから人を殺めることにもなったわけです。ならば、人を殺めることなく人を心から憎んだ人もなぜ憎むのでしょうか。同じ絶望的な希望のない人間だからそうなるのです。基本的にみな一緒なのです。これに目が開かれないといけません。この神様の真の赦し、キリストを犠牲にして、そのほかに私たちが赦される方法がない。罪のないキリストが代わりに犠牲になることで、神様は私たちを無条件、赦され免除されました。この真の赦しが何かを知らないと、先ほど申し上げましたように、バプテスマのヨハネのようにつまずくようになります。信仰生活しながらもちよいちょいつまずいてしまうのです。それで教会から信仰からキリストから離れていくようになります。また来週も再来週もそういうメッセージが出るでしょう。それは本当のいのちの福音が届いてないからです。ここにいらっしゃるさんはこれからつまずくことのない人生を生きるように。なぜつまずくのでしょうか。いまだに自分が生きてるからなのです。自分は神様の赦しのほかには希望のない人間でした。その赦しの感謝と感激を忘れることがないように。そして、今日読みました聖書の前には、バプテスマのヨハネが来て何も食べないでいるから見ると、悪霊に取り憑かれたと批判していました。それでイエス様が来て、弟子たちと一緒にいっぱい飲んで食べたりしていると、あれは食べることが好きなレベルの低い人間だと言っていました。どちらにすればいいのでしょうか。つまり、最初からキリストを拒否することを

覚悟して、最初から信じないつもりで固まっているのです。なぜでしょうか。

2. 真の赦しを知らないと

- 1) つまづくように
- 2) キリストに敵対する不信仰に
- 3) キリストを客に迎え、計算と迷い

真の赦しが何か分かっていないとキリストにつまずくだけではなくて、最初からキリストに敵対する不信仰に走ることになってしまいます。それからもう一つ、今日の聖書に出ているパリサイ人、どういうつもりだったのかよく分かりませんが、イエス様を食事に招待しました。しかし、いまだに客の一人なのです。何かの計算でそのようにしたのでしょうか、イエス様がキリストでもなく、客の一人なのです。真の赦しの祝福が何か分かっていないと、キリスト、キリストと言いながらも、キリストを客として迎えて、つまり計算と迷いが消えないのです。教会に通って信仰生活しながらも、計算と迷いがずっとくっついて、ずっと追いかけてくるのです。そういう状態の教会に通っている人が、この女性のような献身を捧げるときに、もちろん意味もなく自分の計算で献身する人もいますよ。それは別の話で、本当の意味で赦しの感謝のゆえに自分の命を捧げても惜しまない、それでも足りないという感謝が分かって捧げる献身を見たときに理解できません。なぜああいうことをやるのか。なぜあんなに熱心なのか。なぜあんなに献金するのか。理解できないし、挙句は誤解してしまうのです。何かあるんじゃない?とか。自分の状態がそういう状態だということ分かっていないので。つまり。神様の真の赦しの奥義が分かっていないと、教会に通っていても、信じますと言いながらも、キリストはいつまで経っても自分の中で自分の人生において客なのです。自分の願いと自分のごりやくというものはそのまま持っていて、それにある程度プラスになるようなことがあれば少し、そうでなければ...という感じで。そういう人も教会の中に多いのです。そこに神の答えなど、真の癒しなどは見られません。だから真の赦しの祝福が分かっていないと、このようになってしまふということもしっかり心に覚えて参考にしなければなりません。

3. 真の赦しを受けると

しかし、神様の赦しのほかに希望のない人間ということに気づいて、キリストの犠牲による神様の真の赦しを受けた人は変わります。違います。普通の人が見たときは理解できません。だから、家族からも迫害されます。なぜあんなに教会に熱心なのかと言われます。説明できません。その人は赦しが何か分かっていないから。

1) 無条件の感謝

今日の聖書に出ている女性のように、無条件の感謝を捧げるようになります。その赦された赦しの大きさが測り知れないものなのです。何で測れるのでしょうか。地獄に行くしかない、生まれながら神の御怒りを受けるしかないこの罪人、絶対返せない借金を抱えている、運命という借金を抱えている私、しかも御子イエス・キリストを犠牲にして私たちは赦された。世の中のどこにそれが当てはまる法則があるのでしょうか。だから測り知れないのです。

2) 計算を超えた感謝

私たちの理屈や頭の論理などで計算できないものなのです。ただ恵みによって赦された者だけが分かるものなのです。神様は、この地獄の私をキリストによって赦して受け入れられて神の子どもにしてくださいました。ありがとうございます。本当は自分の頭ではありえません。あり得ないことなのに、これが自分の身に起きました。私の残りの生涯、感謝のほかにありません。今死んでも構いません。私のすべてを奪われたとしても構いません。そういう感謝なのです。無条件の感謝です。計算を超えた感謝を捧げるようになります。計算できないから。主のためにというのは、神様がこの献身があれば助かるし、なければ困るから捧げるというものではありません。主のためというのはそういう意味ではありません。計算を超えた感謝です。

3) 絶えない感謝

そして。良いことがあれば感謝。ちょっと厳しくなれば感謝が途絶えるような、そういう感謝ではなく

て、本当の真の赦しの祝福を受けた人は、絶えない感謝なのです。感謝が途切れません。もちろん忘れることがあるのは、一瞬、騙される瞬間だけであって感謝しない理由がないし、感謝できないときは存在しません。なぜでしょうか。この赦しは永遠に変わらないし、この赦しによって私の内側にいのちが与えられて、死と罪と地獄の原理から解放されていることは、依然として死の影の谷を歩こうが捕虜にされていようが変わらないので、その感謝は変わりません。条件付きの感謝ではありません。ここがクリスチャンのスタートなのです。皆さんに何かしら問題、悩みごとがあるのでしょうか。それを悩んだり、あるいはまあどうでもいいや、どちらもよくありません。こだわらずに、こだわりがあるのにもかかわらずその前に、私はこの世に赦された者に変わりはないんだ。この感謝からスタートしないと、その問題に正しくアプローチすることはできません。ずっと問題に翻弄されて振り回されるだけなのです。それが自分の内側にある問題なのか、周りとの関わりのある問題なのか、いろいろな種類があるでしょうけれども、結局は同じなのです。

4) 愛が込められた感謝

そして、今日の聖書にているように、赦された感謝、愛をこめて感謝している。パリサイ人に向かってイエス様がおっしゃっているのは、「お前は何が分かっているのか。入った時から足を洗う水も出さない。まだまだキリストの噂は聞いているが、どうなんだろうと。だから計算です。何かしら計算があつて、また悪いことではありません。招いたので。その意図は何なのが聖書に書いていないのでよく分かりませんが、でもまだ観察の状態みたいな感じです。見てみようか。どうだろう。教会に通ってながらもずっとそういう状態の人もいます。どうだろうなあと。飛び込めないです。なぜでしょうか。自分が神様の赦し、キリストの贖い、犠牲のほかには希望のない返せない借金を抱えている絶望的な存在だということに一度も気づいたことがないからです。となると残念ながら、キリスト教ではありません。キリスト教にはなりません。キリストはそのために来られたのだから。私たちの病気のために、家庭の問題を解決して、皆さんの何かしらの悩み事をどうにかするために来られた方ではありません。それはその中に全部引き込まれている問題です。この感謝からスタートしないので、真の癒しの経験がなかなかできません。ずっとでこぼこになります。そして礼拝を捧げても、本当にみことばによってすべての考えが吹っ飛んでみことばを握って、その握ったみことばの約束に聖霊が働く、そに聖霊の力を体験する、そのような礼拝を経験することができません。御座の祝福が注がれている。神様との疎通がある礼拝をなかなか経験することができない。いろいろなことがずっと引っかかっているのです。結果、現場において救われるべきたましいがその人を越されて、いのちのキリストが伝えられて、いのちの運動が行われる、これが神の答えです。病気が治った、祈ったら金持ちになった、そういうのが答えではありません。神秘的な何かを見て体験した。それも答えではありません。私たちを通して、私たちがキリストのからだなる教会であり、本当に聖霊が宿っている神の神殿であることが現場において、滅びる人々、サタンに囚われているたましいにそれが具体的に現れることが答えなのです。ああなるほど神秘的な幻は見たことはないけれども、私を通して死んでいるたましいが、悪魔に捕らわれているたましいが神様に立ち返るいのちの祝福が現れるんだね。それが答えなのです。その答えのために、すべてがプロセスなのです。旅程なのです。なぜ私は答えがないのか。何を基準にしてそういうことをぶつけているのか分かりませんが、逆になんで答えないのかというのは何で電動運動が起こらないのか。その質問の方が正しいです。なぜでしょうか。スタートがこのような真の赦しに対しての感謝でスタートしていないからかもしれません。

なので、今日のメッセージを通して、皆さん今の何かしら悩み事、問題やいろんな心配ごとなどがあるでしょうけれども、それより先に私には神様に赦された感謝があるのか。それがあつて悩んでいるのか。それがあつてそれを忘れて人のせいにしているのか。それをまず問い合わせてみましょう。確認してみましょう。それがあつてなぜ私の問題は改善されないのかと悩んでいるのか、もしかしてそれなしであらゆることをこだわっているのか。そして、その赦しの大きさ、計算不可能な大きさを自分は知っているのか。その大きさに驚いたことがあるのか。その時にこだわってすべてが崩れるのです。パウロのように、すべてはちりあくたのように。でも皆さんは未だにちりあくたと言われても「まあ聖書が言っているからしようがないけど、ちりあくたはちょっとひどくない?」という感じだと思うのです。これに気づかないこと。自分が唯一キリストの犠牲による神の赦しのほかには希望のない絶望的な存在なのに、それが見られないように知識や人格や教養、マナー、日本の等々のものが先立ってしまって、それを邪魔していたわけ

なのです。唯一の答えを見ることができないように。良いことが沢山あるから良い。世の中はまだ捨てたもんじゃないよというフレーズ。それはすべて偽りなのです。そういうフレーズを頼りにして、まだまだ可能性があるだろう。まだまだこうすればああすれば良いのではないかということで Only キリストにたどり着けないように妨げるものばかりだったのです。そういう意味でちりあくたなのです。何がでしょうか。

そして、これを確認して朝目覚めたら姿勢を正して祈るということをしなくてもよいです。とにかく目覚めたら、この感謝でスタートしましょう。何があろうがこの感謝でスタートしましょう。そして、この感謝をもって生活をしながら、この感謝を持って礼拝に臨むようにしましょう。そうすると礼拝が変わります。礼拝が変われば、必ず皆さんの現場に証拠が現れます。それは神様の願いなのだから。私たちが自分勝手なレベルでそれを全部カットしてはいけないのです。私には…私の現場には…。それは神様のことばは嘘で神様は死んだという話と同じことになってしまうから。皆さんの能力と関係ありません。信じればいいのです。だから礼拝に勝利するとはそういうことなのです。皆さんが礼拝を通して、特にみことばを通して勝利する、それ約束として握るその勝利さえあればそれで終わりなのです、本当は。なぜそれができないかというと、この感謝でスタートしないからです。この感謝の思いで礼拝に臨まないからです。

それでこのように測り知れない神の赦しによって許された私は、その赦しによってあなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないかと言われる神の神殿に変えられているということをぜひ覚えましょう。だからこそ、神の神殿だから皆さんのうわべや能力と関係なく、皆さんには聖霊の力が与えられて、証人となる約束があるのです。許されたから。証人として残りの生涯を約束されています。保証されています。なんと感謝でしょうか。そして神の神殿としてなぜ証人になれるかというと、神の神殿だから。努力によってではなくて、聖霊がが豊かに働く存在になりました。そうなると、必ずたましいを生かす証人となります。つまりさまよっている現場の人々に正しく答えを提供することができる人生を送ることができます。そのために裁判官になる人は、法律の世界でその答えを出すために、医学界に行く人は医学界でその答えが何かを出すために医者になるだけであって、学校の先生になる人は、先生たちには教育はあるけれどもその答えないから、その答えを教育の世界に提供するために私は教師になるだけなのです。これがクリスチヤンの特権であり自負でありアイデンティティなのです。その時に、ローマ8：28 にあるように、すべてを働かせて、その証人の道を歩けるように、それが成り立つように益としてくださいます。それが赦された者の特権なのです。何も心配する必要はありません。自分のアイデンティティが承認、つまり答えを提供するものだということが曖昧なので。駄となること知らないだけであって神様の約束はこの通りです。赦された者なので、神の神殿であり、証人としてすべてが益となる主人公であることをさらにさらに感謝しましょう。この感謝で豊かになって、悪霊が逃げたり、暗闇の力が耐えることができなくて逃げていくクリスチヤンになりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。キリストの犠牲によって無条件、私たちを赦して、またその赦しのほかには方法がなかったので、唯一の方法によって私たちを救われた主の恵みを心から感謝申し上げます。ここにいる兄弟姉妹ひとりひとりが神の測り知れない赦しのほかには希望のない、絶望的な自分のことを認めて、そして神の赦しだけに絞ってそれだけを頼りにしてほかのすべてから自由になり、赦しの確信をもって感謝を捧げるクリスチヤンになるようにしてください。その感謝のゆえに神の神殿としての確信と証人としての希望を持ってすべてが益となるその道を歩けるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。